

ちゅうおう

第209号 2024年



後方支援センター



防護服脱衣

防疫演習風景



ケージ捕鳥



消毒ポイント

長崎県県央振興局農林部（中央家畜保健衛生所）

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331（代）（休日、夜間も携帯電話に転送されます）

FAX 0957-25-1332

E-mail 衛生課：s34500@pref.nagasaki.lg.jp

防疫課：s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課：s34520@pref.nagasaki.lg.jp

HP：<http://www.pref.nagasaki.jp/section/ko-chuokatiku/index.html>

家保HP



防疫課
E-mail



〔目 次〕

- P.1… 表紙(防疫演習風景)
- P.2… 鳥インフルエンザ発生予防対策の徹底を！
～家さんにおける国内1例目発生～
- P.3… 野生いのししの豚熱及びアフリカ豚熱サーベイランス状況
～侵入防止対策の徹底を～
獣医学生のインターンシップ
- P.4… JANAがさき県央繁殖牛改良能力共進会が開催されました
第13回全共北海道大会へ向けて
長崎県ホルスタイン共進会が開催されました
- P.5… *Enterococcus cecorum* 感染症について
- P.6… 防疫演習を開催しました

鳥インフルエンザ発生予防対策の徹底を！ ～家さんにおける国内1例目発生～

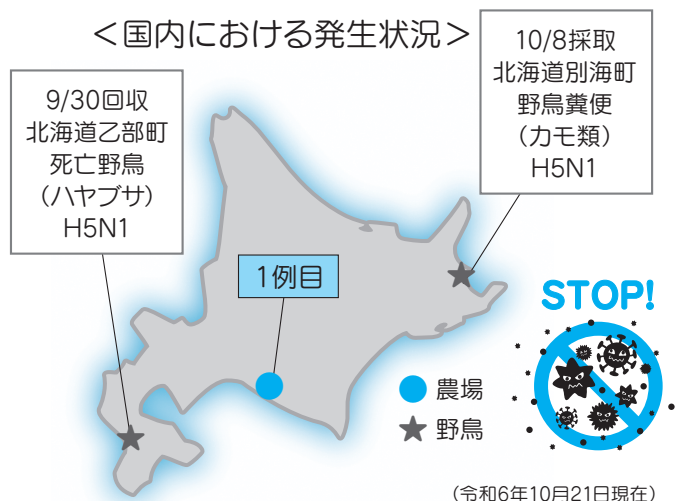
10月17日に、北海道厚真町の肉用鶏農場（約19,000羽飼養）において、**今季初となる高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の疑似患畜が確認されました。**農場での発生は、過去最も早い時期での発生だった令和4年度シーズンよりも11日早く、これまでで最も早い事例です。

野鳥ではHPAIウイルスが北海道で2事例、韓国においても2事例確認されています。今後渡り鳥の飛来がさらに増すことから、**厳重な警戒をもって農場へのウイルスの侵入を防止する必要があります。**

昨シーズンの家さんによるHPAI発生事例は10県11事例と一昨年シーズンよりも発生数が大幅に減少しましたが、その要因の1つとして農場における飼養衛生管理基準遵守による対策効果が挙げられています。

家さん飼養者の皆様におかれましては、下記の事項に重点をおき、**飼養衛生管理基準の不備がないか、農場内の再点検を行い、不備が確認された場合には速やかに是正する**など、発生予防対策に努めるようよろしくお願いいたします。

<国内における発生状況>



	発生場所	発生日	飼養形態	亜型
1	北海道厚真町	10/17	肉用鶏、平飼い	H5N1

■重点対策期間

10月～5月末まで危機感を持って警戒強化

■発生予防対策

○農場・鶏舎入出時の対策

- ・鶏舎毎の専用長靴の着用及び踏込消毒槽による消毒（消石灰乳を推奨）の実施
- ・手指消毒の徹底
- ・車両消毒の徹底
- ・農場専用衣服に更衣する際の交差汚染防止対策の実施

○野鳥や野生動物の侵入防止対策

①施設の点検・補修

- ・防鳥ネットの点検・補修
- ・鶏舎壁面の隙間の点検・補修
- ・集卵ベルト、除糞ベルト開口部の隙間や換気扇開口部の管理（特に停止時）
- ・屋上のモニターや防鳥ネットの設置・点検・補修

②農場周辺環境整備

- ・こぼれ餌の処分、野生動物の隠れ場所となる物品の片づけ
- ・家さん舎周辺に草藪、実のなる植物、巣作りや止まり木に利用される枝等がないように草刈りや木の剪定・伐採等
- ・ネズミの駆除

■早期発見・早期通報の徹底

毎日の健康観察を入念に行い、異状を認めた場合は速やかに当所へ届け出て下さい。

毎月1日は、「ながさき家畜防疫の日」です。飼養衛生管理基準のセルフチェックを行い、農場におけるウイルスの侵入防止対策に努めて下さい。

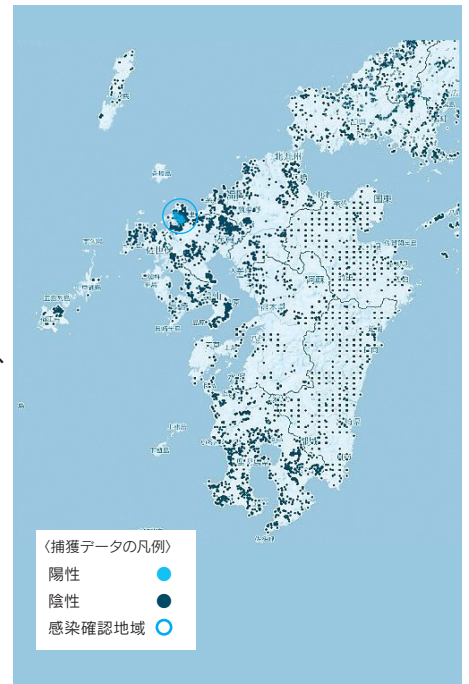
野生いのししの豚熱及びアフリカ豚熱サーベイランス状況 ～ 侵入防止対策の徹底を～

今年6月に佐賀県において九州で初の豚熱に感染した野生いのししが確認されたことから、九州各県では野生いのししのサーベイランス強化を図っています。

佐賀県では313頭を検査し唐津市、玄海町、本県と隣接する伊万里市の4例を含めた24例（10月15日現在）が確認されています。出産・ほ乳期等の季節的な影響も考えられるものの、感染確認地域を中心とした対策の徹底により、その感染の範囲は、感染確認区域内に留まっているところです。

また、アジア諸国に広く浸潤しているアフリカ豚熱については、昨年12月に日本と複数の航路がある釜山港周辺において野生いのししの感染が確認され、国内への侵入リスクが非常に高まっています。韓国当局の周辺いのししの生態調査では死滅していたとの報告もあり4月までの25例以降の確認はありませんが、韓国内では陽性事例が確認されており、予断を許さない状況です。

長崎県では市町、猟友会の協力の下、佐賀県と隣接する地域を中心に452頭（10月18日現在）の野生いのししを対象に両疾病の検査を実施し、陰性を確認しています。今後もサーベイランスを継続し本県への浸潤を確認していきますので、飼養者の皆様においては、引き続き対策の徹底に努めてください。



〈野生イノシシ検査状況〉

- ▶ ワクチン接種農場においても発生が確認されていることから、農場にウイルスを侵入させないために、日常の飼養衛生管理基準の遵守徹底。
このことは、予防ワクチンがないアフリカ豚熱予防対策にも共通
- ▶ 野生動物侵入防止のため、防護柵の再点検及び補修、修繕励行
- ▶ 出荷時の交差汚染防止対策および農場出入り時の車両消毒の徹底



獣医学生のインターンシップ

8月5日（月）～9日（金）の間、日本大学獣医学科4年生の学生さんが当所で行政体験研修を受講しました。肉用牛繁殖・養豚・養鶏農場へ巡回し飼養衛生管理指導や採血、繁殖検診を体験していただきました。その他、血液検査や牛のヨーネ病・伝染性リンパ腫などの抗体検査、病性鑑定業務に加えて、諫早食肉衛生検査所のご協力のもとと畜検査業務も見学していただきました。

研修生の同行を快く受け入れていただいた各農場主の皆様には感謝申し上げます。



牛尾根部からの採血



エコーによる妊娠診断



研修終了時に研修生と家保職員

JAnagasaki県央繁殖牛改良能力共進会が開催されました

9月10日、JA全農長崎県本部県南家畜市場で「第18回JAnagasaki県央繁殖牛改良能力共進会」が開催されました。全体で34頭が出品され、吉崎忠敏さんの「ゆりこ」号がグランドチャンピオン（G.C）に選ばれました。出品牛は全体的に発育が良く、手入れも行き届いており、レベルの高い共進会となりました。結果は以下のとおりです。出品者の皆様、お疲れ様でした。

区 分	褒 章	名 号	出 品 者
第1部 (若雌牛)	金 賞	きわみ2	堤 隼人
	銀 賞	ひでみ	嘉村 秀樹
	銅 賞	ななこ	長島 優
第2部 (繁殖未經産)	金 賞	ゆりこ	吉崎 忠敏
	銀 賞	すず	吉崎 忠敏
	銅 賞	うさみ	中山 栄
第3部 (成牛)	金 賞	ひまわり	長島 優
	銀 賞	もんひかり	杉山 広記
	銅 賞	きらら	中村 真剛



各部の金賞牛

🏆 **グランドチャンピオン**
「ゆりこ」号（吉崎 忠敏）

🏆 **団体賞：東彼地区**

第13回全共北海道大会へ向けて

令和9年に「第13回全国和牛能力共進会北海道大会」が開催されるにあたって、出品牛の取得交配などが決まりました。第6区（総合評価群）及び肉牛の部（第7区、第8区）については、11月15日から交配期間が始まります。より多くの出品候補牛の確保にむけて、生産者、また家畜人工授精師の皆様の協力をお願いします。

○日程

令和9年8月26日8月30日

○場所

【種牛】ホクレン十勝地区家畜市場

【肉牛】(株)北海道畜産公社十勝工場

○第6～8区の交配種雄牛

（いずれも交配する母牛は県内産であること）

・第6区（総合群評価群）：「幸男」

・第7区（脂肪の質評価群）、第8区（去勢肥育）：
「真乃介」、「山若葉」、「正太」

○交配推進期間

・人 工 授 精：令和6年11月15日～12月14日

・受精卵移植：令和6年11月22日～13月21日

長崎県ホルスタイン共進会が開催されました

10月10日、JA全農長崎県本部県南家畜市場で「令和6年度長崎県ホルスタイン共進会」が開催され、諫早農業高校の『カンオージョーダンドリームジャガーベル』号(右写真)が見事ジュニアチャンピオンに選ばれ、11月3日に開催される第8回九州連合ホルスタイン共進会の代表牛に決定しました。

また、令和7年10月に北海道で開催される「第16回全日本ホルスタイン共進会」に向けて、盛り上がった大会となりました。



Enterococcus cecorum 感染症について

Enterococcus cecorum (EC) は、2002年以降海外において、腸球菌性脊椎炎 (Enterococcal spondylitis ; ES) として、肉用鶏や肉用種鶏の化膿性脊椎炎を引き起こす原因菌であることが報告されています。2022年頃からは、全国各地で発生が認められており、県内においても複数の養鶏場で発生がみられています。10月18日に開催された令和6年度九州地区鶏病技術研修会においても、九州3県から本病の発生事例が報告されており、本病により被害が拡大していることが明らかとなりました。

現状では効果的な対策法は確立されておらず、基本的な飼養衛生管理の徹底による予防が重要となります。

<発生状況>

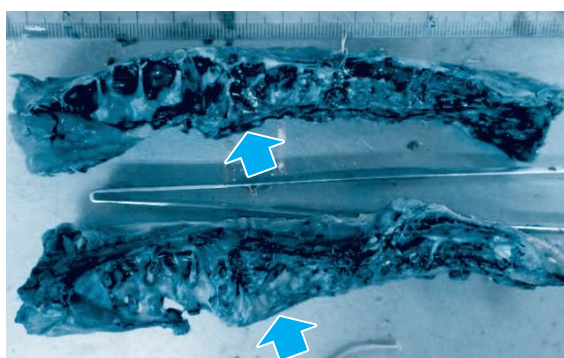
県内の5つの肉用鶏飼養農場において、脚弱を呈し、死亡・淘汰羽数が増加

養鶏場	発生年月日	発生日齢	期間死亡率	診断名
1	令和4年 2月 7日	27	3.6%	グラム陽性球菌の関与を疑う化膿性脊椎炎 (脊椎からの菌分離未実施)
2	令和4年 2月10日	31	12.0%	ECの関与を疑う化膿性脊椎炎 (脊椎からの菌分離未実施)
3-1※	令和4年10月 3日	12	3.3~4.8%	ECによる化膿性脊椎炎
3-2※	令和4年10月21日	24	1.0%	ECによる化膿性脊椎炎
4	令和5年 5月 1日	18	1.5~2.1%	ECによる化膿性脊椎炎

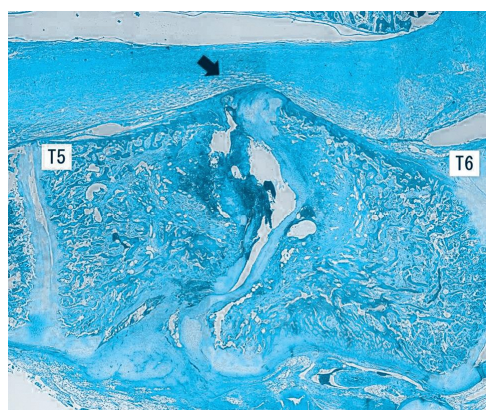
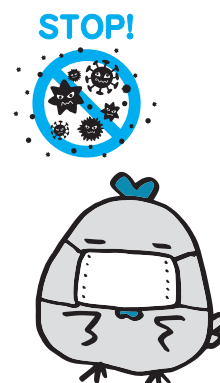
※3-1、3-2養鶏場は飼養衛生管理者が同一、養鶏場間の距離は400m



<外貌所見：発症鶏は開脚し起立不能>



<剖検所見：第六胸椎の膨隆 (矢印)>



<病理所見：第五～六胸椎椎体部に出血を伴う膿瘍形成、胸髄の圧迫 (矢印)>

これらの脊椎病変部からは、ECが分離されECによる化膿性脊椎炎と診断されました。EC感染症は、菌が全身にまわり、心膜炎や肝炎などの病変を呈した後、脊椎病変を呈するとされており、脊椎病変発症後に抗生物質を投与しても効果が見込めないことから飼養衛生管理基準の徹底等の予防対策が重要です。

また、一度発生すると同一鶏舎で発生が繰り返すことが報告されていることから、空舎後の洗浄・消毒の徹底も必要です。

現在も他県で複数報告が相次いでいることから、本病を疑う症状がみられた際は家畜保健衛生所までご相談下さい。

防疫演習を開催しました

★後方支援センター及び消毒ポイントの運営演習

9月19日（木）に諫早市の小野体育館において、管内市町及び県職員計85名が出席し、後方支援センター及び消毒ポイントの運営演習を行いました。

家畜伝染病の発生を想定し、防疫作業者が県央振興局から後方支援センターへバスで移動し、県市町職員により設営された後方支援センターでの資材配布や健康調査などの運営作業、防疫作業者の防護服の着脱説明を実施しました。

また、消毒ポイントの演習では、畜産関係車両通行時の消毒及び消毒証明書発行などの作業を実施しました。

防護服への記名



防護服の装着説明



消毒証明書の発行



★鳥インフルエンザ防疫実地演習

10月2日（水）に当所において、鳥インフルエンザ発生時に農場で殺処分作業に従事する職員を対象に、一連の作業を経験し作業工程を理解してもらうことを目的として、防護服の着脱サポート、防疫作業従事者合わせて36名の出席のもと防疫実地演習を行いました。

県央、西彼保健所職員のサポートにより防護服の着脱を行い、生鶏を用いたケージからの捕鳥をはじめとした一連の殺処分作業に取り組んでいます。

発生時には、関係者が一体となって迅速かつ的確に防疫措置を実施することが極めて重要です。今後も防疫演習を通じて、的確な防疫対応の準備に努めます。

疾病発生状況と防疫対応説明



防護服の装着



ケージ捕鳥



ガス注入

